

# BUNKYO 文協

長崎県文化団体協議会

2006.9.....

65

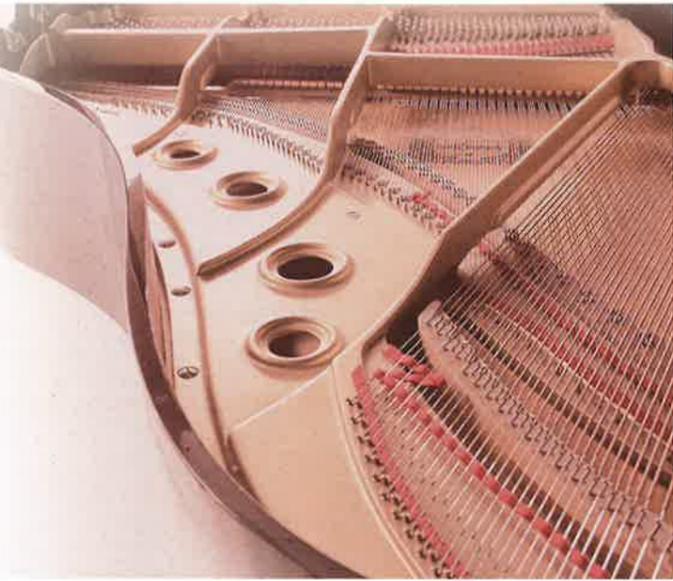
## 特集

- 第34回長崎県新人発表演奏会
- 若手アーティスト派遣事業／長友 裕美
- クレッシェンド・シーハットおおむら便り／松田 昇
- 地域文化の担い手／  
長崎県文芸協会・長崎半島樺島ハイヤ節保存会



# BUNKYO 文協





特集 「新たな旅立ち」 ..... 2  
第34回長崎県新人発表演奏会



●出演者 ..... 3  
松尾 仁美・前田 紘孝・吉田 智子・永淵 邦佳・永留 結花・  
中島 さゆり・谷川 英勢・矢野 初実・向井 静香・島田 真由美

●ゲスト出演者 (佐々 静香) ..... 8  
若手アーティスト派遣事業

●またいつか心いっぱい「ありがとう」の歌声を  
(長友 裕美) ..... 9

クレッシェンド・シーハットおおむら便り

●OMURA室内合奏団海外交流事業日韓合同交流音楽会  
(松田 昇) ..... 10



### 地域文化の担い手

- 俳句で楽しい人生を  
長崎県文芸協会 ..... 12
- 「ハイヤ!」樺島ハイヤ節は今年も元気です。  
長崎半島樺島ハイヤ節保存会 ..... 14



●美術館・博物館 ..... 17

### EVENT GUIDE (イベントガイド)

- 第5回 長崎県ライトミュージックフェスティバル ..... 18
- しまの芸術祭 ..... 18
- 日本の伝統芸能(琉球芸能)公演 ..... 19
- 第4回 長崎県人形芝居フェスティバル ..... 19
- 郷土の芸術家公演 ..... 19
- 第51回 長崎県美術展覧会公募展 ..... 20



●編集後記 ..... 20

# 新たな旅立ち

## 第34回長崎県新人発表演奏会

名実ともに本県クラシック音楽家の新人登竜門として評価が高い長崎県新人発表演奏会。第34回の今年も、課題曲の新設、応募料(5千円)の設定、演奏会でのグランプリ・準グランプリの授与など、さらに発展させるための大きな改革を行いました。出演したのは、応募総数52名の中から3月の厳しいオーディションで優秀賞を受賞した、声楽・ピアノ・フルート・トロンボーン・ギターの10名。いずれも「新たな旅立ち」に相応しい素晴らしいステージでした。そして、審査結果、初代グランプリにはピアノの向井静香さん、準グランプリにはフルートの永留結花さんが輝きました。



写真提供:長崎新聞社

出演が決まった時、驚きと同時に、もう一度演奏を聴いて頂けることに深く感動しました。それと同時に、いろんな葛藤が心の中に生まれました。こういう演奏がしたいなあという思いが沢山出てきて、そんな中一番強く心にあったのは、いい演奏がしたいという気持ちでした。

それからというもの「演奏する」ということをよく考えてみたのですが、考えれば考える程、人々にどの様にしたら伝えられるかわからなくなってしまったのです。

そんな時、ある先生との出会いがありました。先生は「作曲家の気持ちになって考えてみなさい。あなたとラヴェルだけここにいるのよ」そして最後に「いい演奏をしようなんて考えてはダメ」そうおっしゃいました。自分自身いつも作曲家のことを一番に考えていると思っていたのですが、全く反対で、自分がどうイメージし、どう弾きたいかを一番に考えていたのだと気付かされ、もっと一音一音大切に、どんな思いが込められ、どう弾いて欲しいのかを考えて演奏がしたい!!と思うようになったのです。自分の「音」が少しずつ聴こえてくるようになり、それからは演奏に集中できる様になったと感じています。

この演奏会では、まだまだ勉強不足ではありますが、自分の持つ精一杯の力を出せたのではないかと思います。

そしてその様な演奏が出来たのは、スタッフの方々や出演者の方々、家族の温かい心くばりがあったからです。

初めての経験なんです、ステージに出た瞬間、沢山の人々を目にし、涙が出そうになる位嬉しかったのです。皆様に見守られ、この場で演奏出来たことに、心から感謝の気持ちで一杯です。

最後になりましたが、この演奏会に携わった皆様、熱心に御指導して下さいました先生、そして聴きにきて頂いた皆様、本当にありがとうございました。

## 作曲家の気持ちになって



ピアノ 松尾 仁美

■平成音楽大学音楽学部器楽科  
ピアノコース卒業  
■同大学専攻科在学中  
(佐世保市出身)

## 終わりのなき探究



トロンボーン 前田 紘孝

■平成音楽大学 音楽学部  
器楽科 管弦打楽コース卒業  
(雲仙市出身)

第34回長崎県新人発表演奏会に出演させていただいて心より感謝しております。このような大々的な演奏会に出演するのは初めての経験でしたので、とても気持ち良く演奏させて頂きました。

私は熊本の平成音楽大学で4年間、音楽という人の心にとって大切なものを勉強してきて、とても幸せだと思います。師、友人、家族の支えがなければ、こうして文章を書いてはいなかったと思います。

今回、出演された方の中には、現役音大生、他の仕事と両立している方、主婦の方など、様々な追求の仕方音楽をしている方達と巡り会うことができ、とてもうれしく思っています。音楽を探究していくということは、終わりなく探究することだと私は思っています。探究する道に近道はなく、人それぞれの道は違って、想像力と様々な努力によって、探究する道を歩く力になるのだと思います。また、私も、立派な音楽家になり、人に喜びと感動をさせる人になるよう、音楽を続けていきたいと思っています。

## 第34回 長崎県新人発表演奏会 プログラム

第一部	松尾 仁美(ピアノ)		M.ラヴェル/夜のガスパール3.スカルボ
	前田 紘孝(トロンボーン)	ピアノ/朝重 幸子	F.ダヴィット/トロンボーン協奏曲変ロ長調
	吉田 智子(ピアノ)		F.リスト/B-A-C-Hのテーマによる幻想曲とフーガ
	永瀨 邦佳(ソプラノ)	ピアノ/植村 和彦	G.ロッシニ/「音楽の夜会」より 約束
	永留 結花(フルート)	ピアノ/朴 正娟	G.F.ヘンデル/歌劇「エジプトのジュリオ・チェザレ」より この胸に息のある限り 尹 伊桑/歌楽
第二部	中島さゆり(ピアノ)		S.プロコフィエフ/ソナタ第7番第1楽章作品83変ロ長調
	谷川 英勢(ギター)		D.アグアド/エチュード35番アレグロ プリランテ
	矢野 初実(ソプラノ)	ピアノ/森 美春	G.ヴェルディ、編曲 F.タレガ/椿姫の主題による幻想曲
	向井 静香(ピアノ)		F.P.トスティ/薔薇
	島田真由美(ソプラノ)	ピアノ/渋谷 京子	G.ドニゼッティ/歌劇「ドン・パスクァーレ」より あの目に騎士は S.ラフマニノフ/前奏曲 嬰ハ短調作品3-2 S.ラフマニノフ/前奏曲 ト長調作品32-5 S.ラフマニノフ/前奏曲 嬰ト短調作品32-12 S.ガスタルドン/禁じられた歌 G.プッチーニ/歌劇「トスカ」より 歌に生き恋に生き G.プッチーニ/歌劇「トゥーランドット」より 氷のような姫君の心も
第三部	～休憩～		
	◎ゲストコンサート		
	佐々 静香(フルート)	ピアノ/中根 浩晶	カール・ライネッケ/ソナタ「ウンディーヌ」作品167
	◎グランプリ審査発表		
	グランプリ(副賞10万円)	準グランプリ(副賞3万円)	
	◎表彰～フィナーレ		



フルート 永留 結花  
■武蔵野音楽大学音楽学部  
器楽学科卒業  
(大村市出身)



第34回長崎県新人発表演奏会出演にあたりましては、文化団体協議会の方々をはじめ多くの方のご支援によりこのような素晴らしい経験をさせて頂いた事に大変感謝致しております。新人演奏会への出演は私にとって幼い頃からの夢でした。ただ一心にもっとフルートを勉強したいと上京した5年前、全てが初めての世界に戸惑い、苦しい思いをすることも多々ありました。音楽大学の実技試験では毎回極度の緊張を味わい、いつの間にか楽しんでフルートを吹く事を忘れ、このままの自分ではいけないと悩む事も少なくありませんでした。しかし、同じ道を志す仲間達との出会いは何物にもかえがたい財産となり、そんな中で、今の自分も認め、今の自分ができる演奏を心を込めて丁寧にやろうという気持ちをもてるようになったのです。ですから今回の演奏会では今の自分にしかできない表現で、感謝を込めて精一杯演奏しようと感じていました。本番では緊張の中にありながら、しかしフルートを吹く喜びをかみしめることができた様に思います。東京に出たことで経験できた様々な想いがあり、また地元を離れて改めて気付いた故郷の素晴らしさがあります。そんな貴重な時間を私に与えてくれた家族に、そして支えて下さるたくさんの方々に感謝の気持ちで一杯です。まだまだ未熟ではありますが、人との出会いを大切に、広い視野を持って、フルーティストとして音楽家として成長していきたいと思っております。本当に有難うございました。

今の自分には  
できない  
演奏を



ピアノを  
弾き続けて  
いきたい

昨年の新人演奏会のオーディションも今回と同じ曲で受けましたが、その時は上手くいきませんでした。それからしばらくは楽譜もCDも棚の上に置いたままの状態でしたが、先生に背中を押して頂き再度挑戦することを決めました。

挑戦すると決めてからは、練習と仕事の両立がとても大変でした。限られた時間の中での練習でしたので、毎日が時間との闘いでした。でもその事で効果的な練習方法や集中するという事を勉強できたように思います。また同じ曲で挑戦したことにより、前回見えなかった事、足りなかった事が今回は沢山見えてきて本当に勉強になりました。そして、私の大好きな曲の一つになりました。

大学卒業の時、恩師より「どんな状況でもピアノは弾き続けてね」と言われた事があります。忙しい日常の中で演奏を続けていく事はとても大変な事だと思いますが、どんな時も目標を持ち、挑戦し続ける事を大切にしたいと思います。

最後に、御指導して下さいました先生や応援の皆様、またお世話して下さいましたスタッフの方々に心より感謝致します。今回のこの貴重な体験は良い思い出と共に私の財産になりました。ありがとうございました。



ピアノ 吉田 智子  
■武蔵野音楽大学音楽学部  
器楽学科ピアノ専攻卒業  
(雲仙市出身)

第34回長崎県新人発表演奏会に出演できたことをとても嬉しく、光榮に思っております。

私は、毎年行われている長崎の新人演奏会を聴きに行っており、舞台上で演奏する方々の晴れ舞台を見て、自分もいつかこの舞台に立ちたいなという憧れを持っていました。その念願の舞台に、晴れて出演でき、自分の演奏を多くの聴衆の方々に聴いて頂いたことはとても嬉しく、関係者の方々、聴衆の皆様に感謝で一杯です。

また、この演奏会を通して私自身、多くのものを学び、吸収することができたと感じます。私は大学でピアノを学んでおりますが、今回の演奏会に向けて必死に頑張る中で、曲と真剣に向き合うことができました。曲に真剣に取り組む中で、自分の内面に向き合うような感じがして、疑問や悩みが出てきて落ち込んで、自分の良い所と欠けている部分を評価して、自分なりの練習、取り組みができるようになりました。音楽が常に周りにあるという環境の中で、普段考えたりしたことはなかった、自分にとって「音楽」とは？ということに自分自身に問いただしてもいました。私は音楽が流れている空間には何か不思議なパワーが宿っていると思います。私は音楽を通して、聴いて下さっている方々に何か感じてもらえるような演奏を心がけ、目標としています。この演奏会を通して自分自身をすごく成長させてもらった気がしました。

また、落ち込み、悩んだ時に悩みを聞いたりしてくれた友人や、応援して下さいました自分の周りの人達のおかげで、自分が頑張っているんだと心から感じました。自分がどれだけ恵まれた環境の中で音楽をすることができているのか気づき、本当に私を支えて下さっている多くの方々に感謝と敬意で一杯です。そして、この素晴らしい新人発表演奏会を企画し、運営して下さいました多くの関係者の方々に心から感謝致します。本当に有難うございました。

「音楽」が  
できる  
喜び



ピアノ 中島 さゆり  
■活水女子大学音楽学部  
演奏学科ピアノコース4年在学中  
(長崎市出身)

さゆり



ソプラノ 永瀧 邦佳  
■福岡教育大学大学院  
教育学研究科音楽教育専攻  
演奏学分野声楽領域修了  
(長崎市出身)

邦佳

今回のステージは、私にとって故郷での久しぶりの演奏となりました。

大学を卒業して、私はこの長崎を、家族のもとを、仲間のもとを離れ、新しい世界へと踏み出しました。ウィーンへの留学、そして福岡での大学院生活、場所は全く違いますが、知らない世界へと足を踏み出す勇気はどこへ行くにも一緒でした。自分の居場所がない所に飛び込んでいって、そこに自分の力で居場所を作り上げていく…口で言うのは簡単ですが、かなりタフな精神力と努力と体力を要することです。しかし、それと引き換えに私はたくさんの素晴らしい出逢いを授かりました。素晴らしい師との出逢い、切磋琢磨しながら共に演奏できる素敵な仲間との出逢い、特に大学院でのとてもハードではありましたが充実した音楽漬けの生活は、私の人生においてとても貴重な財産となりました。

しかし、そうして新しい世界で頑張ってきたのは、他でもない長崎にいる恩師、仲間、そして両親のお陰です。音楽をここまで続けさせてくれた両親、それぞれ別の道に進んでもいつも私を応援してくれた西高の仲間…たくさんの人に支えられて今の私があります。大好きな音楽ですが、だからこそ専門とすると辛く、その難しさにもがき苦しみ、自らのふがいなさに失望してくじけてしまうことも多々あります。芸術の世界は、表向きは華やかに見えますがそれはほんの一部分に過ぎず、実はその殆どは地道で孤独な鍛錬の日々、己との戦いの繰り返しなのです。

それでも続けているのは、やはりただただ好きという以外に他にないのですが、その好きでいることを続けさせてくれたのは、私の周りの愛する人たちであると思うのです。

ブリックホールでソロで演奏させていただいたのは、大学の定期演奏会以来でしたが、その頃の思いや、私自身の在り方という意識が大きく変わっていることを実感しました。それが、少しはあの頃と比べて自分自身が成長できたということなのかはわかりませんが、もしそうであれば良いなと思いつつ、そして私を支えてくれた愛する人達に感謝の念が届くようにと願いながら歌わせていただきました。

これからも、聴衆の心に何かを残せるような、もう一度聴きたいと思ってもらえるような歌手になれるように日々精進してまいります。

最後になりましたが、このような記念の場を作っていただきましたことを感謝致しますとともに、お世話いただきました関係者の皆様には、深くお礼と感謝を申し上げます。

長崎県新人発表演奏会の益々の御発展を心よりお祈りいたします。

感謝の  
ステージ



イメージをしっかりと持つことの大切さ

長崎県新人発表演奏会のステージに立つことは、私の大きな目標であり憧れでもありました。演奏会が終わった今思うことは、大きく二つあります。

一つは、私を支えて下さった全ての方々に対する感謝の気持ちです。ピアノが弾けるということは幸せなことです。精神面も含めて、すごくいろんな環境が整わないと弾けないからです。

もう一つは、ピアノに全身全霊で打ち込んだことで得られた深い満足感です。演奏会までの準備段階で本当に多くのことを考えました。その中でも、人に説得力のある音楽を伝えるためには、イメージをしっかりと持って弾くことが大切だと改めて思います。弾いたら一瞬で、ほんの通過点であっても、こだわりを持って少しでも美しい世界に近づく努力をしたいと思います。

最後になりましたが、このような伝統のある素晴らしい演奏会に出演することで本当に幸せでした。演奏会に携わっていらっしゃる皆様に心から感謝いたします。



ピアノ 向井 静香

■活水女子大学音楽学部  
ピアノ・オルガン学科卒業  
(長崎市出身)



感動を与えることのできる音楽家を  
目指して

今回、第34回長崎県新人発表演奏会に出演させていただけた事に大きな喜びを感じています。僕の今までの大きな目標の一つでもあった、このオーディションでの合格は、今の僕の自信と原動力に繋がっていると言えます。しかし、ここで満足して足を止めてしまうのではなく、これをステップにもっともっと努力して上を目指し、研鑽を重ねていきたいと考えています。

日頃、僕が、家の中で練習していると、ついつい技巧的な事に頭がいってしまい「聴き手」の存在を忘れてしまいがちですが、やはり一番大切な事は、「自分の音楽を通じて、如何に感動を人に伝えられるか」と思います。「では、どうすれば人を感動させる事が出来るのか?」という疑問が浮かんで来ますが、やはり一番分かりやすいのは、世界的な名手の演奏を目の前で聴くと一瞬にして、その人が、どれだけ途方もない量の練習とそして研究を重ねてきたのかが分かります。それが、自然と人に伝わり、感動が生まれるのではないかと思います。そのような素晴らしい体験をもっと多くの人々に知っていただきたいという気持ちを持って、これからは、私自身が少しでも人に感動を与えることの出来る演奏家を目指して努力していきたいと思ひます。最後に、今日の自分に至るまでを支えて下さった多くの方々、諸先生方、家族、そして、演奏を聴きに來て下さる方々に感謝し、御礼申し上げたいと思ひます。



ギター 谷川 英勢

■県立鳴滝高校卒業  
(諫早市出身)



新人発表演奏会では多くの方々のご支援のもと、とても貴重な経験をさせて頂いたことに心より感謝しております。

学校を卒業して8年がたち、そのうちの約5年は声楽から遠ざかっていました。現在、母親になって約2年、育児と家事に追われる毎日が続いたある日、高校の同窓生で結成したコーラスに参加し、九州交響楽団とのジョイントコンサートに出演しました。歌うことの楽しさを忘れていた私は「育児・家事に追われる毎日ではなく、生活にメリハリが欲しい。それは目標を持って声楽を勉強することではないのか?」と思ひ、新人演奏会オーディション合格・出演を目標に、家族の協力を得てオーディションを受けました。

演奏会当日のブリックホールでは精一杯の演奏をさせて頂きました。しかし、演奏会に出演する準備段階で十分に出来なかった事は今後の課題として残っています。

育児・家事をしながら声楽の勉強をすることは、時間的にも厳しい面がありますが、最近では息子が声楽(音楽)を一番に楽しんでいるようです。私が勉強をする時はピアノの近くに座っておとなしく聞いていたり、一緒にピアノを弾きたがります。そんな時は息子の好きな童謡やオペラの序曲を簡単に弾くと、音楽に合わせて踊っています。テンポや音の強弱、音符の長さなどに合わせて全身で表現している姿を見ると、「楽しいね! ママ、一緒にもっと楽しもうよ。もっともっといろんな音楽を教えてね。」と言っているような気がします。

他の楽器と違い、声楽は自分の身体が楽器なので、コンディションを整えるのも難しいことですが、新たな声や表現を身につけるのも難しいことです。私は数年のブランクの間に経験・体験したことがあったからこそ、学生時代にはなかった新たな声や表現を身につけられたと思ひます。

これまでに経験したこと全てが私の財産として残り、サポートしてくれている家族、熱心にご指導して下さる先生、音楽を通じて出会えた方々がいてくれるからこそ今の私があります。いつも本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも大好きな音楽を息子といっしょに楽しんで続けていきたいと思ひます。

ソプラノ 島田 真由美

■活水女子大学音楽学部  
声楽学科卒業  
(佐世保市出身)

これからも大好きな音楽を  
息子と一緒に楽しみたい



ソプラノ 矢野 初実

■長崎大学歯学部  
歯学科4年在学中  
(島根県出身)

新人発表演奏会を終えて改めて、長崎に来て本当によかったと実感しています。4年前、長崎大学歯学部に進学すると決めたとき、大きな舞台で歌うことはもう一生ないだろうと思ひました。しかし、大学に入ってから歌を続け、このような大きなステージで歌う機会を頂けるほどに成長できました。それもこれも、長崎でたくさんの素晴らしい人々と出会えたお陰です。

先生方、合唱団の方々、友人たち…全ての出会いが、一人暮らしで勉強と歌の両立に難渋する私の心の支えとなっています。そして島根からは、家族がいつもエールを送ってくれました。

たくさんの方々を支えられて迎えた本番では、私の歌人生の中で一番多くの拍手を頂くことができ、お客さんが喜んで下さったのが伝わってきて本当に感激しました。

今までの出会いがひとつでも欠けていたら、今の私はなかったと思ひます。支えて下さった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも勉強と歌をしっかりと両立させ、歯科医としても歌手としても、たくさんの人を喜ばせることができる人生にしていきたいと思ひます。

歯科医としても  
歌手としても



平成18年7月2日  
鹿町町文化会館

「またいつか心いつぱいの  
「ありがとう」の歌声を  
第25回北松浦おかあさんコーラス  
交歓演奏会に参加して」  
長友裕美

◎若手アーティスト派遣事業とは

県文化団体協議会加盟団体からの要請により、長崎県新人発表演奏会出演者を派遣する事業です。派遣経費のうち、出演者旅費と出演料を要領に沿って県文化団体協議会が負担するものです。18年度は他に、江迎町文化協会、飯盛文化協会のイベントに参加予定です。



舞台に立つ時いつも思うことは、演奏を通して出会った人との心のふれあいやつながりを大切にしたいということです。「芸術は共感があってこそ」今回の経験でその思いが一層強くなったような気がします。聴衆と一体となる音楽、人の心をあたたく包みこむような演奏をしたいと思っています。そのために、これからまた時間をかけて自分の歌を探していくつもりです。今回私がもらった喜びややさしさ…これからは、私を見守り元気をくれるであろう故郷長崎に、またいつか心いつぱいの「ありがとう」の歌声を響かせたいです。(宮崎市在住)

若手アーティスト派遣事業により、北松浦おかあさんコーラス交歓演奏会においてゲスト演奏をさせて頂きました。会場であたたかく迎えて下さったお母さん方、聞くところによるとこの演奏会は二十五年も続いているそうです。演奏を少し聴かせて頂きましたが、明るい笑顔と歌声に、こちらが元氣と勇氣をもらいました。この様なお母さん方のすてきな活動と地道な努力が、きっと長崎のまちや人をも元氣にしてくれると思います。

今まで様々な演奏会で歌う機会はありませんでしたが、今回一人で三十分の時間を頂き、その中で選曲、内容や演出を考えて舞台上に立つというのは初めての経験でした。聴いて下さる方に喜んで頂けるよう、一人の演奏家として自覚を持って臨もうと思いましたが、本番では演奏に真摯に耳を傾け、私のつたない話にも時折うなずきながら聴いて下さったお客様やお母さん方に大変支えられました。また、私の活動を陰ながら見守ってくれた家族のありがたさを実感しました。私は現在長崎を離れて生活していますが、常に変わらず心にあるのは、故郷長崎とそこにいる人や家族への想いです。最後の曲は文部省唱歌の「ふるさと」を選曲しましたが、私の心にある想いを表現するのには一番ふさわしいと感じた曲です。一緒に口ずさんで下さり、あたたかい拍手を頂いた事は、今後活動を続けていく上での励みと力になると思います。今回の演奏会は本当に多くの人のやさしさを肌で感じた貴重な経験でした。

若手アーティスト派遣事業により、北松浦おかあさんコーラス交歓演奏会においてゲスト演奏をさせて頂きました。会場であたたかく迎えて下さったお母さん方、聞くところによるとこの演奏会は二十五年も続いているそうです。演奏を少し聴かせて頂きましたが、明るい笑顔と歌声に、こちらが元氣と勇氣をもらいました。この様なお母さん方のすてきな活動と地道な努力が、きっと長崎のまちや人をも元氣にしてくれると思います。

ゲスト出演 佐々静香さん

今回から設けられたゲストコーナーには、昨年の第33回演奏会で好評を博したフルート奏者の佐々静香さんを迎えました。佐々さんは、長崎市生まれで、くらしき作陽大学音楽学部出身。卒業後ドイツに渡り、現在、ベルリン「ハンス・アイスラー」音楽大学に在学中で、2005年8月よりゲッティンゲン交響楽団の契約団員の将来有望な若手アーティスト。今回は、同じドイツの交響楽団で活躍中の中根浩晶(ピアノ)さんとのデュオによる、カール・ライネッケ作ソナタ「ウンディーヌ」作品167を華麗に披露してくれました。

本県の音楽文化の向上を目的に1972年から開催。来年の35回目の記念演奏会に向け、今年は賞金10万円のグランプリを設けた。昨年から審査態勢も充実、審査委員長を大阪シンフォニカー交響楽団首席指揮者の大山平一郎さんが審査委員長を務めている。

52人のオーディションから優秀賞に選ばれた10人が、長崎ブリックホールの大舞台でステージを披露し、グランプリを競った。

初代チャンピオンの向井さんは長崎市在住の27歳。活水女子大音楽学部卒。長崎市の絃洋会楽器店のピアノ講師。ラフマニノフの「前奏曲嬰ハ短調」「前奏曲ト長調」「前奏曲嬰ト短調」の三曲をロマンチック、優雅に演奏した。「今年はブリックに立てただけでもうれしかった。違うタイプの三曲を選んだ。最初は重々しく、次は優しい感じ、最後はテンポのある曲。後悔しないよう一生懸命にやった。伸び伸びと弾けた。これを励みに指導と演奏活動を並行して頑張っていきます」

グランプリ受賞者は来年、ゲストとして出演。メモリアルとなる35回演奏会でのさらに成長した姿が期待される。

準グランプリは永留結花さん(フルート)が獲得した。大村市出身の22歳。武蔵野音楽大を卒業し、東京で勉強中。韓国の作曲家、尹伊桑の「歌楽」を演奏。ピアノ伴奏の朴正娟さんとの息もぴったり。三部編成の作品を感情豊かに表現し、「地元で演奏ができてうれしかった。ゆくゆくは長崎で活動したい」と抱負を語った。

演奏会推進委員会の友永仁委員長は「音楽性、芸術性をいかに聴衆に伝えるかを審査。オーディションの合格者。それぞれに立派な演奏が楽しめた」と講評した。

国際的音楽家の大山審査委員長は音楽会の充実を評価。「グランプリ。素晴らしい緊張感、期待感があり、クオリティーが上がった。お客さんも好奇心を持ち、さらにステージにあこがれを持つようになった。伝統もある。音楽界の活力になっている」と語った。

(平成18年5月23日付長崎新聞)より

質の高い  
ステージに





シーハットおおむら・さくらホールを、メイン会場に持つOMURA室内合奏団は、長崎県内唯一のプロの合奏団として、県内外で注目されています。そのマネージャー・松田昇さんに合奏団の舞台裏を綴っていただきました。

# OMURA室内合奏団海外交流事業 日韓合同交流音楽会

財団法人 大村市振興公社 事業部  
OMURA室内合奏団マネージャー 松田 昇

梅雨の合間に広がった晴れ空の7月3日、福岡空港からチング(仲間)と呼べるニュー・フィルハーモニア・オーケストラのメンバー36名が帰路に就きました。私自身、芸事に係る仕事に就いて未だ10年に満たない経歴の中で、国を跨いでの仕事はこの公演が初めてでした。また、これまでの人生においても、些か実感の薄く、この企画にとっては天災とも言うべき国情という予測不可能な事態に直面し、これほど強く意識させられたことは、勿論のことですが初経験となりましたが、ある意味刺激的な感動の日々はこの日に終わりを迎えました。

周知の通り日韓の間に存在し、互いが歩み寄れない議論(竹島問題)は、04年10月に公演の企画を立案して以来、幾度となく我々の気持ちを不安にさせ、多くの関係者の感情を揺さぶるものでした。しかしながら、05年10月の韓国・大邱広域市での第1回公演、第2回公演となった今年6月30日からの大村市と松浦市での開催が無事終了しました。これらを結果的に成功へ導いた要因は、そもそもこの企画が日韓両国の音楽を愛する者たちによって歩み始めたもので、これに係わり音楽の感動を信ずる両国のオーケストラの面々による人的な文化交流であったところにありました。決して易いとは言えない多くの障害を乗り越え、公演成立に向けて互いに気持ち紡ぎ上げられたのは、「文化(音楽)に国境はなし」という強い信念が貫かれた結果と言えます。

この公演が立案されたのはOMURA室内合奏団の発足元年にあたり、常識的な判断であれば発足2年目に海外公演を行うのは無茶な判断と言えます。ましてや、合奏団という幼年期の組織においては、人口300万を越す韓国の大都市にあるプロ・オーケストラとの共同開催を行うことは果敢な挑戦とも言えるのですが、失敗すれば今後はないという大きなリスクを負った上での試みであったことは言うまでもありません。

しかしながら、結果的に得られた個々の感動や団体としての結束力は、演奏技術からトータル的なマネージメントまでの合奏団としての組織力を向上させ得るだけの影響力のあるものだったことは、埋め尽くされた大村と松浦の客席に広がっていたお客さんの喝采と笑顔から、私だけではなく、すべての合奏団関係者が実感し、確信していると思います。さらに、この公演中に常に近いところで接してきた韓国オーケストラの指揮者イムヒュンシク氏から頂いた別れ際の「Good job」の一言は、マネージメントに従事する我々にとっては今後の大きな心の糧になり得るもので、関係者へのこの上ない感謝の言葉でありました。

この日韓合同交流音楽会では、日本と韓国という異国の人々を見事に結んだ「音楽」というひとつのリボン。OMURA室内合奏団にとってもオーケストラ公演やアウトリーコンサートで届ける音楽は、「演奏家」と「子ども」を結びつなぐ役割を果たしています。プロやアマチュア、大人と子ども、様々な人々が共有している音楽という共通言語は多くの人々を結びつけ、感動させる力を持っています。これからもその感動を一人でも多くの方に届けられるOMURA室内合奏団であり続けたいと願っています。



6月29日 共同記者会見 左から3人目マイクを持つのは指揮者の迫昭嘉氏



6月29日 歓迎レセプション

平成18年6月30日 シーハットおおむら「さくらホール」での演奏

## 合奏団公演情報

◆OMURA室内合奏団 第3回定期演奏会  
～時を越えて…モーツァルトの鼓動、ここに響く～

日時：12月10日(日) 14時開演(13時30分開場)  
場所：シーハットおおむら・さくらホール  
プログラム：モーツァルト：ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488  
モーツァルト：レクイエム 二短調、K.626  
料金：【全席自由】一般：2,000円(会員：1,800円)  
高校生以下：1,000円(会員：900円)  
※当日券は各々500円増  
チケット発売：会員：9月5日(火) 一般：9月12日(火)  
出演：指揮・ピアノ：迫 昭嘉  
演奏：OMURA室内合奏団  
独唱：吉川友理(ソプラノ)・長峰由紀子(アルト)  
児玉和弘(テノール)・東原貞彦(バス)  
合唱：シーハット混声合唱団  
主催：財団法人 大村市振興公社

## 合奏団関連トピックス

◆「マダム・バタフライ国際コンクール in 長崎」  
◎日時：9月24日(日) 14時開演 ◎場所：長崎ブリックホール  
→同コンクールの最終審査を指揮に迫昭嘉、ゲスト・コンサートマスターに松野弘明を迎え、OMURA室内合奏団を中心に特別編成された「長崎マダム・バタフライオーケストラ」による伴奏で行います。  
料金：一般：2,000円 大学生以下：1,500円

◆「迫昭嘉ピアノリサイタル」  
◎日時：12月1日(金) 19時開演 ◎場所：とぎつカナリーホール  
→OMURA室内合奏団の音楽監督でもある迫昭嘉によるソロ・リサイタル  
曲目：ドビュッシー「版画」より、組曲「子供の領分」より、ラフマニノフ「ソナタ第2番 変ロ短調 Op.36ほか」  
料金：一般：2,000円 大学生：1,500円 高校生以下：1,000円



# 俳句で楽しい人生を

地域文化の担い手・長崎県文芸協会



第45回長崎文芸大会(平成17年11月13日長崎ブリックホール国際会議場)

長崎県文芸協会(松田晴一会長)は、小説・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳の6部門で構成している。事務局は2年ごとに短歌部門・俳句部門・川柳部門の持ち回りで、今年の4月からは俳句部門が役員を担当。年に1回、長崎ブリックホールで「長崎県文芸大会」を開催し、文学賞・応募作品の表彰、講演会、部門別研究会を行っている。また、入賞作品集「長崎県文芸」を年1回発行している。

同会は、年間会費・作品応募費・県からの助成金及び法人・個人の賛助会費で維持しているが、県からの助成金の減額等もあり、目下の課題は、維持運営費の確保、および公的機関に事務所を確保することである。

「県からの補助金も減額され、事務所を持たない団体としては運営が厳しいですね。県は文化には力を入れてくれると思いますので、文芸にも力を入れて欲しいですね。今、各個人宅に書籍を分散させていますが、これを1カ所に集めて保管したいと思っています。せめて、事務所の構えだけでもないと、物を置くところがありません。事務所の円滑のために事務所をぜひ整備して欲しいです」

7月のどんよりとした雲が空を覆い、今

にも雨の降り出しそうな天気の中、当協会の入っている大波止ビル3階に集まってもらったのは、長崎県文芸協会の役員の方たち4名。会のお話を聞いているうちに、「臨時俳句会」となった。

俳句の楽しさとは何でしょうか？

「長生きが出来る」「天文、地理、歴史、植物、行事等に詳しくなるので博学になる」「派が違っていても互いを認め合っている」「対人関係が豊かになる」「友達が出来ると」「鉛筆1本、紙1枚で出来るので公害が出ない」「元気になるから高齢化社会にはびったし」。

次々と答えが返ってくる。会員の平均年齢は70才。約7割が女性である。「女性の方が元氣ですよ」と皆さん口を揃えて言う。

自己紹介がてら自薦の句を披露してもらった。

達者かと無骨な文字で今年米

井原雅胤(いはらまさつぐ)

(長崎県文芸協会事務局次長)

この句で、去来忌俳句大会において去来賞を授賞した。始めたきっかけは、飲むことと仕事以外に興味が無かった40才代後半の頃、

奥さんが内緒で長崎市民俳句講座に申込みをしたこと。「飲むだけじゃ駄目」と言われ、「才能がないから」と尻込みしたら、「行って嫌ならやめればいいじゃない」と背中を押され、行ったらはまった。そこには知らない世界があった。「こういう世界があるのか!」今でも奥さんに感謝している。

無造作に投げて確かや早苗束

岩本昭一(いわもとしょういち)

(長崎県文芸協会事務局会計)

句歴7年。以前友達に誘われて2年間やってきたことがあったが、やめてしまった。長崎歯科医師会を定年退職後、以前誘ってくれた友達に弟子入りした。俳句のおもしろさは、「自然と対話できる」ところ。俗事から離れられるところ」と言う。

老骨に皮突っぱてみる裸かな

石川玄能(いしかわげんのう)

(長崎県文芸協会事務局長)

お話を聞いた日はあいにくの天気だったが、その雨の長崎港を題材に即興で詠んでもらった。

荒梅雨や鶴の港の昼灯し (雅胤)

島渡船たちまち呑みし男梅雨 (玄能)

船台を小さく巨船や梅雨探し (秀俊)

梅雨の窓女神大橋見え隠れ (昭一)

商才にだけ白服を着こなせり

木場田秀俊(きはたひでとし)

(長崎県文芸協会副会長)

句歴60年。俳句を始めたきっかけは受験雑誌の俳句欄に投稿したこと。句に詠まれている白服を着た人物は、本人とは全く反対の人物像。「俳句が面白いのは①作る②詠む③選ばせてもらうの3つが出来るところ。そして、作り手は詠み手などところもいろいろ」。

俳句には吟行の面白さもある。近くの公園を歩いたり、平戸まで1泊の旅に出かけ、即興で句を詠む。天候に関係なく、色んな物に「目を留め」「足を止め」「心を留め」て、句にする。

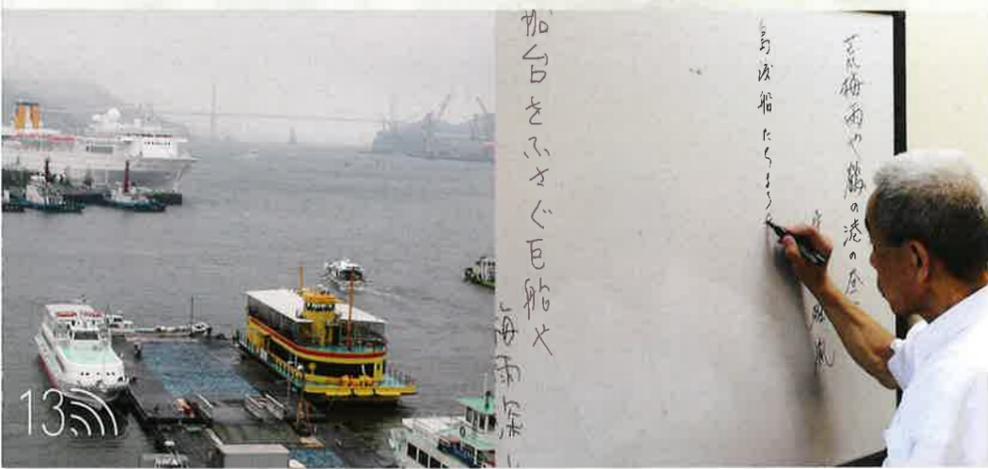
長崎県文芸協会事務局

〒850-0015 長崎市桜馬場2-1-1-502

石川 玄能

TEL.095-824-7358

(取材:野崎)



無造作に投げて確かや早苗束  
岩本昭一

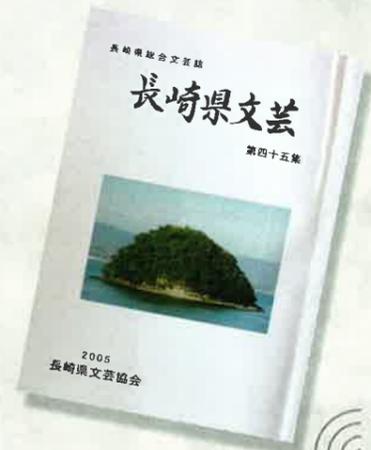
達者かと無骨な文字で今年米  
井原雅胤

老骨に皮突っぱてみる裸かな  
石川玄能

商才にだけ  
白服を着こなせり  
木場田秀俊



集まっていたいた文芸協会の皆さん



# 「ハイヤ！」樺島ハイヤ節は

## 今年も元気です。

### 地域文化の担い手・長崎半島樺島ハイヤ節保存会

ハイヤ節の発祥は平戸市田助港といわれている。それが北に南に風に揺られて湊、湊に伝わった。長崎半島は樺島の樺島ハイヤ節もその一つ。だが、このハイヤ節はひと味違う。他地域のハイヤ節はどこも「よさこい風」にアレンジされてしまっているのだが、樺島ハイヤ節は昔のまま素朴な形で受け継がれている貴重な存在だ。長崎市の最南端、旧野母崎町樺島は昔から漁業を基幹産業とし、「風待ち」「潮待ち」の湊として栄えた。この自然条件の中で、樺島ハイヤ節は江戸時代末期から昭和の初期まで、「新船祝」や「大漁の宴席」、「婚礼」などの祝辞の際、盛んに唄われていた。しかし、昭和2年、7年に島を襲った大火と、同12年に始まった日中戦争などのために、次第に忘れ去られていった。

それが復活するのは戦後30年経った頃である。昭和59年に樺島駐在所に岩崎敏光さんが赴任してきた。引っ越しの荷物の中に三味線を見つけた島の人々は「今度来た駐在所の奥さんはなんかすっとはい」と噂した。その噂はたちまち島内に広がり、妻の岩崎キクエさん(当時50才)は公民館の民謡教室の講師に推薦されることとなった。「よそ者として地域にとけ込めるか不安もあったが、自分の



第30回長崎郷土芸能大会(平成17年9月25日)

特技を生かして少しでも明るい町づくりにお手伝いしよう」と講師を引き受けた。その頃、樺島にはまだ橋が架かっていなかった。「当初は島の気風になじめず、年齢層も多様で、気心も知れず、そのため誤解なども生まれ大変苦労したが、皆さんが良く理解してくれて、マナーも良くなりました。そして、稽



この日の練習締めくくりは全員で「ハイヤ！」

古熱心でその上達ぶりには驚きました。ですから1人の落ちこぼれも出ないようにと、眼を見つけては、昼でも訪ねて行って特別指導をしていました。」

講座の評判はすこぶる良く、講座の終了後、自主グループ・岩崎会が生まれ、週に1〜2回、民謡や三味線の練習に励み、ハイヤ節保存会の母体となった。会員からハイヤ節のことを聞いた岩崎さんが、師事していた民謡の

本多由明さん(長崎市在住)や町内の関係者に相談したところ、「ぜひ、復活を」ということになった。たまたま宴席で歌われたのをテープに収めていたのを約1ヶ月かけて掘り起こし、踊りは島の古老達がかすかに覚えていたのを繋ぎ合わせ、ついに昭和62年9月樺島ハイヤ節を復活させた。

平成4年には三和町布巻地区に伝わっていた「布巻のさ」と、蚊焼地区に伝わっていた「蚊焼の子守唄」を復活させ、平成12年には地元の要請を受け福田ハイヤ節(長崎市)を復活させた。さらに平成15年には、川原地区に伝わる川原まだらを他区の人と一緒に取り組み、「川原まだら保存会」を組織し、復活させた。

その一方で、毎年「平戸のハイヤ祭り」をはじめ、県下各地のイベントにも招かれている。また、「全国豊かな海づくり大会」「長崎オランダ年」の各種記念行事、「愛・地球博」にも参加。そして、豪華客船「プリンセス・ダイヤモンド」号のステージにも呼ばれ、国際交流に役立っている。「ハイヤ節は参加型なので、タオルで引っ張り込むんです。外国人の方はノリがいいので、ステージに上がってきて一緒に踊ります。」

樺島のハイヤ節の大きな特徴は、振り付け





フィンセント・ファン・ゴッホ 「夫は漁に出ている」  
(1889年 AIGスター生命所蔵)

# AIGコレクション

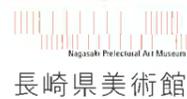
～フランス印象派から  
エコール・ド・パリへ～

- 会期 平成18年10月7日(土)～11月19日(日)
- 料金 一般 1,000円(900円)  
大学生・70歳以上 800円(700円)  
高校生 600円(500円)

※( )内は前売および団体料金 ※小中学生は無料

モネやルノワールなど、日本で極めて人気の高い画家たちの作品で構成されるこのコレクションは、その質の高さにもかかわらず、これまで一度も本格的に紹介されたことがありませんでした。本展は、この秘蔵のコレクションを初めて大々的に一般公開する貴重な機会となります。モネやピサロのみずみずしい風景画、ルノワールやローランサンの愛らしい少女像、ゴッホの安らかな母子像、藤田嗣治の絢爛たる静物画、そしてシャガールのめくるめく幻想世界…。フランス近代絵画史を彩る画家たちの知られざる名作に、この秋、長崎で、出会ってみませんか？

お問い合わせ 長崎県美術館 TEL.095 (833) 2110



長崎県美術館



平成17年サファイアプリンセス長崎入港歓迎レセプション

平成17年「長崎生まれ・取れたて農水産物フェスタ」で

がシンプルで子供から高齢者まで誰もが楽しめる場所だ。おじいちゃんとおばあちゃん、お孫さんと孫で参加している家庭も少なく、ハイヤ節をとおして世代間の交流が行われているのも魅力だ。夜7時になると、7才から83才までの野母崎地区だけでなく長崎市内からも、ハイヤ節に魅せられた仲間が、公民館に集まり練習を始める。週に1回約1時間半の練習は、大きな声と熱気に包まれ、公民館は熱くなる。三味線の調律の音が鳴り響く中、踊り手衆は各々体を動かし始める。準備体操をする人、振り付けを確認する人、先輩から教えてもらう人、互いに教え合う人々、そこには大声と笑顔が行き交っている。通し稽古では三味線と太鼓の音に合わせて、元気のいい腹から出た声と足踏みの音がホール中に響き渡る。全員が同じ振り付けで、輪になつたり二列になつたり隊形を変化させテンポの早いハイヤ節を踊りまくる。

「三味線の音を聞くと体がしゃんとするんです。不思議と腰が伸びるんですよ」  
船を漕ぐ姿を模した振り付けでは、腰を屈めて腕を曲げたり伸ばしたりする様が堂に入っている。顔を上げて胸を張り腰に手を添え、腰を左右に振る姿はちょっと可愛らしい。最後は「ハイヤッ」の掛け声を叫び、手を上に突き出す決めポーズを決めると、皆の顔には満足感・達成感が溢れる。

「先生はとても熱心で、もういいんじゃないかというぐらいやられる方でした。『情熱がほとばしっていました。熱心で夢中になっていました。』岩崎さんは今年3月に体調を崩され6月に亡くなられたが、保存会は毎週三和町晴海台公民館で夜遅くまで練習を重ねている。(資料提供・鶴殿行芳氏) (取材・野崎)

## 長崎半島樺島ハイヤ節保存会

会 長 桑岡登美子 長崎市野母崎樺島町1709-1 TEL 095-893-0701  
事務局 長 松村 隆重 長崎市野母崎樺島町325 TEL 095-893-1248 携帯 090-9401-0305  
事務局連絡先 長崎市さんわボランティア活動支援センター  
長崎市布巻町111-1 (事務局代行 西岡敏子) TEL/FAX 095-892-0030

2000年 阿蘭陀年ファイナルイベント(中央、青いハッピー姿が前会長、岩崎キクエさん)



長崎歴史文化博物館 1周年記念



- 会 期 2006年9月13日(水)～10月15日(日)
  - 開館時間 8:30～19:00(最終入館18:30)
  - 観覧料 一般 800円 高校生 600円 小・中学生 400円  
(予定) (640円) (480円) (320円)
- ※( )内は前売団体15名以上の場合

今年も間もなく開催される「長崎くんち」。博物館ではくんちの奥深い世界を紹介する企画展を開催いたします。諏訪神社の全面協力により、神社の創建からくんちの仕組み、そして江戸時代に行われたくんちの様子を紹介いたします。今回、くんちに関する初公開資料やくんちを体感出来るイベントも多数開催予定です。

博物館 耳より情報

## イベントの間 立山亭

(りゅうざんてい)



博物館では、お茶会や生け花など和のイベントにご利用出来る、イベントの間「立山亭」がございます。お茶会などでは本格的なお茶席として、また全てのお部屋を使うと30畳の和室になりますので、様々な催しに対応できる施設です。

お問い合わせ 長崎歴史文化博物館 TEL.095 (818) 8366



長崎歴史文化博物館  
Nagasaki Museum of History and Culture

## 日本の伝統芸能(琉球芸能)公演

沖縄民謡界の重鎮 神谷幸一と長崎とゆかりの深い石嶺聡子が長崎に琉球の風を吹かせます。

## 「神谷幸一 琉球ライブ2006」

- [1] 平戸市生月町会場  
 ■日時: 10月14日(土) 17時30分  
 ■会場: 平戸市生月町開発総合センター  
 ■料金: 大人 1,000円/小・中・高校生 500円  
 小学生未満 無料 (全席自由)

- [2] 鹿町町会場  
 ■日時: 10月15日(日) 14時  
 ■会場: 鹿町町文化会館  
 ■料金: 大人 1,000円/小・中・高校生 500円  
 小学生未満 無料 (全席自由)



ゲスト:石嶺聡子

## 第4回長崎県人形芝居フェスティバル

県無形民俗文化財の「千綿人形浄瑠璃」と「皿山人形浄瑠璃」、世界でも珍しい人形遣いがロクロ車と呼ばれる箱車に腰掛け一人で一人の人形を操る国選択無形民俗文化財指定の東京都八王子市の「八王子車人形西川古柳座」、女性が一人で人形を操る大阪市の「乙女文楽 桐竹蘭紗也」(新上五島会場のみ)による人形芝居。

- [1] 波佐見町会場  
 ■日時: 11月24日(金) 18時30分  
 ■会場: 波佐見町総合文化会館  
 ■料金: 一般 300円  
 高校生以下 無料(学生入場券が必要)

- [2] 新上五島町会場  
 ■日時: 11月26日(日) 13時30分  
 ■会場: 新上五島町鯨賓館ミュージアム・ホール  
 ■料金: 一般 500円  
 高校生以下 無料(学生入場券が必要)



八王子車人形西川古柳座

## 郷土の芸術家公演

- [1] 南島原市会場  
 「南風に乗せて(はえんかぜにのせて)」  
 ~エイサーと島唄と三線の調べ~  
 出演: 琉球國祭り太鼓/team くくる&金城安紀  
 ■日時: 9月16日(土) 19時  
 ■会場: ありえコレジヨホール(南島原市有家町)  
 ■料金: 500円(3才以上)

- [2] 西海市会場  
 「和の饗宴2006」~バチバチジョイントライブ~  
 出演: 西方小天鼓/石井流津軽三味線 秀旺会  
 ■日時: 11月19日(日) 14時30分  
 ■会場: 大島文化ホール(西海市大島町)  
 ■料金: 500円 高校生以下無料(学生入場券が必要)



琉球國祭り太鼓



石井流津軽三味線 秀旺会

西方小天鼓

## EVENT@GUIDE

最新イベントガイド

## おもしろイベント目白押し 第18回長崎県民文化祭

## ★第5回 長崎県ライトミュージックフェスティバル★

ポップス、ロック、ジャズ、アカペラ等幅広い音楽分野の音楽祭。

一般公募により出演者(5組程度)を決定し、その中から公演当日大手レコードメーカーのプロデューサーが直接審査し、グランプリを決定!!賞金10万円。

当日は、スペシャルゲストに、2005ぴあ学園祭ランキングNo.1を獲得した『UNDER GRAPH(アンダーグラフ)』がやって来ます。

また、昨年グランプリを受賞した『YOGOE HATS(ヨゴエハッツ)』も演奏でフェスティバルを盛り上げます。

- 日時: 11月25日(土) 14時30分  
 ■会場: 諫早文化会館  
 ■料金: 2,000円(全席指定)



スペシャルゲスト: UNDER GRAPH(アンダーグラフ)

出演者 応募締切  
 募集中!! 9月20日(水)  
 消印有効

ただいま当フェスティバルの出演者を大募集しています。詳しくは、下記へ。  
 NBC長崎放送「長崎県ライトミュージックフェスティバル係」  
 TEL.095-820-1060

## ★しまの芸術祭★

あの“ポケマジ”がやってくる!

管楽器、打楽器、ピアノからなるプロの吹奏楽ユニット“マジカウ・サウンズ”より選りすぐりのメンバー「ポケット・マジカル」(略してポケマジ)と地元中学・高等学校吹奏楽部との共演。メンバーによるワークショップも開催します。

- 日時: 11月25日(土) 14時  
 ■会場: 対馬市交流センター(厳原町)  
 ■料金: 当日 1,500円(前売 1,000円)  
 高校生以下 500円



※お問い合わせは、いずれも長崎県文化振興課へ(TEL 095-895-2762)  
 長崎文化ジャンクション <http://www.pref.nagasaki.jp/bunka/>

旅する長崎学

キリシタン文化編

ながさき歴史発見・発信プロジェクト  
長崎県の歴史がぐんと面白くなるおすすめ本

# 『旅する長崎学』

～ふるさとの魅力再発見に役立つ必携ガイド～

- ◎長崎県企画による画期的なガイドブックの新シリーズ
- ◎歴史ストーリーの中に本県の豊富な歴史・文化の魅力が際立つ
- ◎写真や資料が満載のビジュアル編集でわかりやすさ抜群

◎旅に便利なコンパクトサイズで地図や施設ガイドも充実

A5判、64ページ  
オールカラー  
各号**600円**

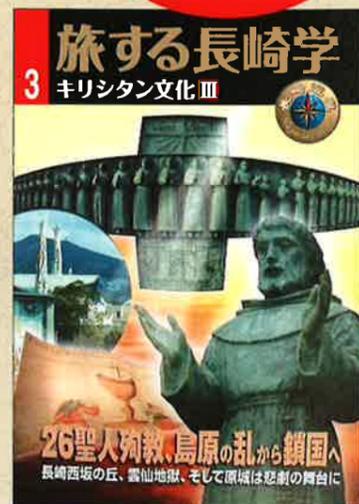
長崎県では、本県の歴史をテーマ毎にわかりやすく紹介するシリーズ本「旅する長崎学」を創刊しました。歴史の中に潜む新たな発見や、意外なつながりを探訪する楽しみ、歴史の舞台となった場所でしか味わえない感動をお届けします。この秋、『旅する長崎学』を愛読書に、長崎の旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。



第1号:長崎で「ザビエル」を探す



第2号:長崎発ローマ行き、天正の旅



第3号:26聖人殉教、島原の乱から鎖国へ

好評発売中の「キリシタン文化編」は、今年中に5冊を発刊予定。

「おすすめのこと」

●市川 森一さん(脚本家)  
長崎の史跡は、ポジティブ(見えるもの)とネガティブ(見えないもの)の二重構造になっている。「旅する長崎学」を旅のお供にしたいだけ、見えないものが見えてくる。

●福地 茂雄さん(アサヒビール(株)相談役)  
日本人の価値観は多様化・高度化しつつある。観光旅行もただ単に「ハコもの」を訪ねたり、「美味を探す」旅を卒業し、「意味ある旅」を探し求めている。「旅する長崎学」は、単なる観光案内書を超えて、そういった人たちのウォンツを充たす書だと思っ。

●林 一馬さん(長崎総合科学大学学長)  
長崎県は広い。しかも各地域には、それぞれに刻まれた歴史があり、一様でないから奥が深い。のみならず、それが海外とつながっているのも大きな魅力だ。こういう歴史の風土である長崎を本場に知るためには、「旅する」以外にないのではなからうか。格好のガイド本の登場で、愉しみはつきそうにない。

●光田 明正さん(前長崎外国語大学学長)  
日本の中にあつて、長崎はユニークである。また外から見ると、日本を世界に向かって代表してきた存在でもある。ゆっくりと自分の足で歩き、目で確かめながら思索をしつつ、旅するのが一番よい。そのガイドとなり、長崎を理解するのにこのうえない良き資料が誕生を見たと言えよう。

【お問い合わせ】『プロジェクト』について:長崎県文化振興課 TEL.095-895-2762  
『旅する長崎学』について:(株)長崎文献社 TEL.095-823-5247

## 第51回長崎県美術展覧会公募展



第五十回記念展公募展 西望平和賞 「スクリュウ」 田中 秀穂氏作

長崎県文化史の一翼を担って51年。日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・デザインの傑作が一同に揃う。今年も会期中、委嘱作家の提供作品によるオークションや小・中学生を対象とするワークショップを開きます。

区分	長崎会場/入場料			佐世保・諫早会場/入場料		
	当日	前売り	団体	当日	前売り	団体
一般	500円	400円	400円	250円	200円	200円
高校	300円		200円	150円		100円
70歳以上	400円		320円	200円		160円
小中生	無料			無料		

- 団体は20名以上
- 障害者手帳保持者及び介護者1名は5割減額
- 前売券販売所:  
県文化振興課・県展事務局・長崎県美術館・浜屋プレイガイド・画材店など

### \* 移動展

- 【1】島原市会場  
■期間: 11月9日(木)~11月12日(日)  
■会場: 有明総合文化会館
- 【2】杵崎市会場  
■期間: 11月16日(木)~11月19日(日)  
■会場: 杵岐文化ホール
- 【3】雲仙市会場  
■期間: 11月23日(木)~11月26日(日)  
■会場: 愛野町トレーニングセンター

☆移動展は入場無料です。

### ◎長崎県文化団体協議会とは?

「長崎県内における芸術文化団体相互の連絡調整を図り、文化活動を促進して県民文化の向上を期す」ことを目的に昭和38年発足。現在99団体が加盟しています。会長は金子原二郎長崎県知事。

### ◎編集後記

・一瞬の風景を読み取る俳句。200年に及ぶ歴史を感じさせる樺島ハイヤ節。今回の取材は好対照でしたが、「芸」に掛けるその熱意はすさまじいものでした。「文化の秋」本番、今年も県民文化祭を満喫して下さい。(江口)

・事務所を飛び出し取材に出かけると、文化活動をされている方々の情熱を身近に感じられ元気が湧いてきます。その情熱を少しでも伝えられるよう、四苦八苦しながら原稿を書きました。いかがだったでしょうか。(野崎)

## BUNKYO 文協

第65号(2006)平成18年 9月発行

発行/長崎県文化団体協議会  
住所/〒850-8570 長崎市江戸町2番13号  
長崎県文化・スポーツ振興部 文化振興課内

電話/TEL.(095)822-6049 FAX.(095)829-2336  
編集/長崎県文化団体協議会事務局  
印刷/日本紙工印刷(株)